

## 令和4年度 第4回南相馬市ゼロカーボン推進計画策定委員会 議事録

■日時：2023年2月6日（月） 14:00～15:45

■会場：南相馬市役所本庁舎4階 議員控室

### ■出席者

委員長：福島大学 教授 佐藤理夫 氏

副委員長：国立環境研究所 地域環境創生研究室長 五味馨 氏（オンライン参加）

委員：相馬ガスホールディングス（株） 専務取締役 今津健充 氏

：福島県トラック協会 相双支部 青年部会副部長 上田由幸 氏（オンライン参加）

：南相馬市復興事業協同組合 理事長 石川俊幸 氏

：原町金融団 七十七銀行原町支店長 高前田賢一 氏

：鹿島商工会 経営指導員 奈良陽一 氏（オンライン参加）

：南相馬市区長連絡協議会 副会長 猪野昇 氏

：南相馬市小中学校校長会 南相馬市立原町第三中学校長 志賀嘉津美 氏  
（オンライン参加）

：あすびと福島 次世代育成チーム長 沖沢真理子 氏（オンライン参加）

：公募委員 武藤美佐 氏（オンライン参加）

オブザーバー：環境省東北地方環境事務所 地域脱炭素専門官 松田夕希 氏（オンライン参加）

：福島県生活環境部環境共生課 根本純一 氏（オンライン参加）

事務局：南相馬市 市民生活部 佐々木部長

市民生活部 生活環境課 中本課長、橋本係長、末永主事、高橋係長、鈴木主査

## ■配布資料

- ・資料 1：第 4 回南相馬市ゼロカーボン推進計画策定委員会 本編
- 別紙 1：【第 3 回補足資料】部門別エネルギー需要量
- 別紙 2：【第 3 回補足資料】再エネ・省エネ削減量の算出根拠
- 別紙 3-1、別紙 3-2、別紙 3-3
- ：【第 3 回補足資料】市民アンケート調査結果、事業所アンケート調査結果、市民アンケートに対する委員意見書（五味副委員長）
- 別紙 4：（仮称）南相馬市ゼロカーボン推進計画 構成案
- ・資料 2：第 3 回南相馬市ゼロカーボン推進計画策定委員会 議事録
- ・その他：会議次第、出席者名簿、座席表

## ■次第

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 報告
  - (1) 第 3 回委員会の補足説明（振り返り）
4. 議事
  - (1) ①市民が積極的に地球温暖化対策に取り組むために必要なもの
  - ②事業者が地球温暖化対策を導入していくための支援
  - (2) 南相馬市らしさと具体的施策の方向性について
  - (3) 分科会の区分とテーマについて
5. 閉会

## ■ 議事録

1. 報告	
事務局	ここからは委員長に進行をお願いします。
委員長	それでは、事務局より前回委員会の補足説明をお願いします。
事務局より、【別紙1～4】について説明を行った。	
委員長	アンケートの件について、副委員長より何か補足があればお願いしたい。
副委員長	アンケート調査内容および調査結果の詳細をいただき、確認した。 回答者の属性が最初に気になる場所と確認したところ、確かに回答数ないし回収率というのはそんなに高くはなかったが、市の人口構成と比べて大きく違いはない（偏りはない）と思った。ただ1つ注意点があり、一人暮らしの方と、一人暮らしで集合住宅に住んでいる方が少ないので、実際の市の平均と比べると戸建て住宅・家族で住んでいる人の回答が多くみえるという程度の偏りはある。
委員長	時間を割いていただきありがとうございました。 今の補足説明もあわせて何かご質問等ございましたらお願いします。
委員A	別紙1について伺いたい。表中の「人口一人当たりのエネルギー需要量」について、製造業と貨物にて南相馬市と福島県の値に差があるには何故なのか教えて頂きたい。
委員長	私も伺いたいと思うので、もし即答できたらお願いしたい。
事務局	こちらで正式に分析したものではないので、詳細はここでは言えない。ただ、製造業については、特に熱量とか大規模の工場が関係しているかもしれない。
委員長	後で精査してみるといいかもしれない。もしかしたら市の特徴がこういうところに出ているかもしれない。他にご質問はあるか。
委員B	貨物の輸送エネルギーに関してだが、福島第一原発からの汚染土輸送を県内外からかなりお手伝いいただいてダンプカーが動いたという経緯があった。このエネルギーに関しては、浜通りが主に消費しているという情報がある。
委員長	ありがとうございます。集計のとき何を南相馬市にするのかを再確認していただいて、もしその影響が南相馬市としての排出量に思いっきり加算されているのであれば、考慮していくとする。 それでは議事に入りまして、まず議題1のご説明を事務局よりお願いします。
2. 議事	
事務局より、【資料1】の第1～4章（P13まで）について説明を行った。	
事務局	事務局より今日添付した「南相馬市ゼロカーボン推進計画構成案（別紙4）」について補足説明する。 今まで計画がどんな形になるのか、市の方で提示してなかったもので、どこに結びつくのか、わかりづらかったと思う。この資料が計画の構成となっている。 今日ご議論していただきたいのは、第2章の南相馬市の地域特性のところと、第5章の温室効果ガスの排出削減取組についてである。後ほど議論していただきたい。別紙4にも、取り組みの背景を少し載せている。これを最終的に第5章の中

	に盛り込んでいきたい。さらに分科会で計画内に反映させていくテーマについて議論をしていただきたい。
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>P13 の内容で、市民向けと事業者向けと分けて記載しているので、まずは市民向けあたりを視野に入れながら議論はしたい。</p> <p>その前にご説明に対してご質問等あればお願いしたい。何かご発言ありましたら本当に自由をお願いしたい。まだ何かを決めるという時点ではないので、実践事例や提案があればお願いする。</p>
委員C	<p>3 回の委員会に渡って皆さんのいろいろな意見を拝聴してきた。現在当然のことながら大きくテクノロジーが変わっていく時期かと思う。</p> <p>私は、この街の問題はコミュニケーションが一番欠けていることだと思う。アンケート結果も見たが、例えば「ゼロカーボンに関しての宣言について知らなかった」「このアンケートで初めて知った」、それから「様々な補助金についても知らなかった」という意見が気になった。もちろん市民一人一人が自ら知識を得ていくということが大切だとは思う。しかし、被災地であり人口構成が変化しており、さらに移民も増えているなか、各々のコミュニケーションを深めていくことが大きな課題と思う。</p> <p>コミュニケーションをとりやすくするには、例えば、形から入るということもありかなと思う。例えば、街のメインストリート（駅からの四葉通り）を歩行者専用の遊歩道とし、例えば浜町でいうと、県道 262 号（大通り）、その北側に県道 12 号があり、南側には平成通りがある。県道 12 号は従来通りに通行させて、あとの部分はほとんど一方通行にすること等が考えられる。現在の街をみると、市民が個々別々の消費者として存在している印象がある。もちろん大変便利で素晴らしいことだと思うが、それで完結してしまう生活というのがもったいなく感じる。コミュニケーションというのは、様々な雑の間に生まれるもの、必要なものの中に生まれてくるものではないかと思う。</p> <p>コミュニケーションの形態で例えるなら、今は素晴らしい大きなショッピングセンターが南相馬市にもあるが、私はここでのコミュニケーションは、やはり常に消費者でしかないように思う。そして大きな駐車場には空間が本当にもったいないと思う。あの駐車場全体に太陽光パネルを付けたらいいのではないか。南相馬市には素晴らしい太陽光パネルの施設がたくさんあるが、テクノロジーを生活の中に見えるようにしていくという方法が良いと思う。人間は目で見えないものは考えないことが多いのではないかと思う。そこで、スーパーマーケットのような、人が集まるそういうところに太陽光パネルを設置したりしていくべきではないかと思う。その点は事業者の方が積極的に負担していただきたいと思う。</p> <p>以上のような遊歩道があればウォーキング、ジョギングにも使えると思うし、様々なデモンストレーションも使えると思う。もしすぐにはできないということでしたら週に一度、道路を完全に閉鎖して何か市の様々な情報交換のために利用するというのも考えられるのではないかなと思う。</p>

	<p>市民の1人として考えていることとして共有したが、素晴らしいテクノロジーがすでにあり、もう先に取り組みをされている方からの様々な知恵を借りてアイデアをどんどん私達の町に利用していけばいいと思う。私達の街で本当にゼロカーボンに詰めていくために、必要なことはコミュニケーションで、街の人々が情報を得られて、交換できる、そういう場所が必要である。</p>
委員長	<p>市民のコミュニケーションが大事で、どのようなまちづくりをするかという視点が少し足りなかったかもしれない。</p> <p>技術をもつ人が集まっているので、まちづくりの視点というのをしっかりもち、特に中長期的な観点から以上の点も確かに必要だと感じた。</p> <p>関連してでもいいが、どなたかご発言あるか。</p>
委員A	<p>委員Cからの意見内容についてまとめたのがパンフレットの件かなと思った。私もこのような感じでこれから市民に対する活動をPRすればいいなと思った。</p> <p>市民の方も環境について意識はもっている。マスコミ等でいろんな番組で取り上げているので、脱炭素の考え方について市民は知らないとか無関心だということはないと思う。ただ、南相馬市の取組を市民と一緒にやっていく等の関わり方を考えることが大事だと思っている。私も行政の特徴としての悩み（先ほどの意見であるコミュニケーション）を持っている。地元で第3次総合計画説明会に参加し、これからの南相馬市のあり方として非常に重要な項目、重要なデータを取り上げられていたのを見た。しかし、私自身も各行政区長さんも含め出席率が低い。だから、住民とのコミュニケーションがいかに重要かといっても、実現することはなかなか難しい。募集しても人が集まらない。その中でどう地域の中で構築していくかという、なかなか難しいと思う。我々がどう一緒にやってもらうか、我々自身も大変だけどそこを理解してこのカーボンニュートラルの取組をしていかないとならない。しかし、根底的には住民の方は理解していると思う。マスコミや新聞等で取り上げているし、ただそれを自分ごととして展開していけるかがなかなか難しいのではないか。具体的に今後変化していくかっていうことがこれからどんどん今の実態の一端として認識させることはなかなか難しいのではないか。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。一番難しい課題をはっきりご指摘いただいた。</p>
事務局	<p>やはりそこに本質があると思う。副委員長からの意見書でもあった部分で、身近に感じさせる・そのものにさせていかないと積極的な参加は多分いただけないかと感じる。エネルギーの高騰問題、災害対策レジリエンス等が市民にとってのメリットを感じさせるようにしないと、参画はなかなか難しいかなと感じた。</p>
委員長	<p>短期的の話と長期的な話があったので、分科会の「市民の取組」のところでまず関心を高める取組が短期的に必要な。さらにその先にテクノロジーとか産業と他にどのようなまちづくりをするのかという視点が必要になってくる。</p> <p>多分、私や事務局が想定したものよりさらに深く絵を描く必要があるのかなと感じるので、ぜひ分科会で深く意見を交換し合って市役所として取り組めるような</p>

	<p>形、市民の方に関心を高めるやり方を実践する形で繋げていければと思う。</p> <p>分科会の市民の取組のミッションが少し大きく重くなるが、自由にどんどん議論していただきたい。まずは関心を高める取組が必要で、コミュニケーションを深めた上で、将来のまちづくり、どのようなまちにしたいのかという点も踏まえていきたい。これから再構築するまちに少子高齢化対策+脱炭素は当然必要だと思うので、そのような議論を進めていければと思う。</p> <p>次に事業者向けだが、これはどちらかというと短期的な観点で現在の事業からの排出量をいかに減らせるのかという考え方であり、それぞれの産業界の課題を発言いただければと思う。事例紹介、こういうアシストがあれば進む、というような要望でも結構かと思う。</p>
委員B	<p>トラック協会からの意見になるが、去年に水素トラックが福島県内に導入されたが残念ながら相双地区だけが導入されなかった。会津地区も導入されなかったが、福島県内では県中といわきのみでデモカーが走行しているのが現状である。せっかく浪江町で水素を作っているのに、浜通りではデモカーが導入されなかったのはなぜなのか。水素ステーションに近くインフラ整備も難しいとは思いますが、震災で被災した地区がそれに参加できなかったのは残念である。</p> <p>行政の方では水素ステーションを増やしていくっていうお考えはあるのか、お聞きしたい。</p>
委員長	<p>今回、相双地区で参加できなかった件は何かご存知か。</p>
事務局	<p>詳しい理由についてはこちらで把握していない。</p>
委員長	<p>先日福島県の再生可能エネルギーに関連する委員会で、いくつかその拠点が増えた話は私も伺った。もし水素社会に積極的に取り組むということであれば、近隣の自治体とも連携して行くことが重要である。</p> <p>現状では浪江の水素製造能力は非常に乏しいので、浪江が近いからという理由でデモカーを走行させることにはなかなか繋がらないという実態はあり得ると思う。物流が存在する限り、いかに脱炭素化するのかっていうのは難しい業界だと思うので、具体的なご提案もよろしくお願ひしたい。</p>
事務局より、【資料1】の第4章（P14～19）について説明を行った。	
委員長	<p>今ご説明いただいたところで何かご質問、ご意見ございましたらお願ひしたい。</p>
委員D	<p>南相馬市は震災を経験して、市民の方が大変な思いを経験した。このゼロカーボンシティも継続的に世の中が続いていくためのことであるために必要なものであって、市長も100年続くまちづくりについて震災を経験してというところでは言われているのかなと思う。そういったところを結びつけるような見せ方というか、先ほどコミュニケーションの意見も出たようにコミュニケーションや見せ方が肝になってくるのかなと思う。</p> <p>農業だったら、例えばやはり震災で結構汚染されてしまった田畑から回復してきたというような見せ方は分かりやすいかと。再エネも、原発に頼らない点で実績</p>

	<p>として再エネ導入を十分アピールできるのかなと思う。そして復旧だけでなく復興というところで新産業も入れたこの3つを見せていくのは良いかと思う。</p>
委員E	<p>前回私が話した「南相馬市らしさ」について触れていただいたが、私自身も元々この地区は農業なのだろうなと認識していた。ただ、風評被害等の現在の状況を踏まえると、農業が南相馬市らしさとしてふさわしいのか課題があると思う。これからの農業は、どちらかという首都圏に近い近郊農業と着目される。南相馬市は気候も非常に温暖である等の条件はいいと思うが、今後の南相馬市らしさを考える上で、今までのあり方にこだわる必要があるのかは考えていかないと思っている。</p> <p>新産業については、例えば、文化庁の京都移転等、地方創世の動きが出ている市にはイノベーション・コースト構想に基づくロボテスがあるが、より対内外的にも印象的な機関ができればなど思っている。実験事象の現場から、民間企業の参入等、最終的に「つくば市」のように産業が集積してくれれば、市がより活性化すると思う。</p> <p>ただ、その南相馬市らしさを考えると、1000余年の歴史なんかもあって当然農業が最初に出てくる分野だと思う。しかし、これからの産業を考えていくと、例えば mRNA 南相馬工場といった立派な工場が建っている。それが市の主流産業となる可能性もあると思う。</p> <p>先ほどお話あったように、市全体が交通体系を整える等、できることから実践することがいいと思う。</p>
委員A	<p>カーボンニュートラルとしては吸収源として触れられるのではないかと。南相馬市は地理的条件から農業を押し出せると思うし、CO2 排出に対する吸収源のクレジットとして販売まで行けたら良いと思う。いくら電気自動車の導入など頑張ったところで、電力会社を含め石炭等を消費しているうえではそれを無視してカーボンニュートラルを推進することに違和感がある。CO2 を吸収できる面をとらえると「農業」が適切ではないか。南相馬市らしさの中で「市の基幹産業だから農業の復興」と単に押し出すのではなく、自然環境分野としての評価はいかがか、という話を前回出した。しかし、評価手法が確立されていないということで、我々が議論してきた点を含めた農業関係については勉強が必要と感じた。その点についても専門の方々からお話していただきたい。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。農業・林業あたりまで幅広く考えると、林業はかなりの吸収源として期待できる。作物は光合成で育つので農業は産業としてはかなりカーボンニュートラルの位置にある。ただ、農業機械や物流等である程度のエネルギーを消費する位置づけになる。農地にカーบอนを固定するアイデアもあるようだが、現状ではカーボンニュートラルの位置づけかと思う。</p> <p>市全体として農業の位置づけをどうするのかという点は色々議論があるかと思う。委員Eがおっしゃった通り、旧来の農業のままていくと風評問題等あるのが事実である。逆に、地産地消型や高付加価値を併せて考える必要もある。これは</p>

	<p>カーボンニュートラルというよりは、市の内政の話になるかもしれない。南相馬市らしさの柱として表に出すかは、分科会の議論の後でまとめて、他の柱と比較して重みづけをできればよい。</p> <p>新産業を1つとして括っているが、再エネも産業である。柱として見せるためには同じくらいの太さのものが3本欲しい。柱の太さをそろえるための再編成が必要になると思う。</p> <p>また、現状の市の汚染度合いからいくと小高区はかなり除染が進んでいる。原町から北は放射距離的には原発が近いが放射性物質の効果が多くないので実は原発事故があった年に耕していた。中通りの農地の方が実は汚染度が激しいという皮肉な状況となっている。本当に長い間で浜通りの農産物に対する風評被害があったが、農地の汚染度とはあまり関係ない。農地の土壌を分析してきた立場から感じた見解である。</p>
副委員長	<p>委員長がおっしゃるように農業自体というのはCO2を排出・吸収の両方している。農地の中にどれくらい土壌炭素を蓄積していけるかの点については、確かに最近話題にはなっている。南相馬市のいろいろな農地の条件でこれがどれくらいできるのかは結構専門的なことなので、おそらくちゃんと調べてみないと分からないことかと思う。分科会を立てるということに私は賛成である。そこで議論していただければと思う。</p> <p>参考になる事例が山梨県にある。山梨県は果樹園で、果物を育てている土地は、割と炭素を溜めやすい条件がある。その点が参考になると思う。ただ、農業関係で脱炭素と言われると、まずはスマート農業、つまり農業それ自体の省エネが挙げられる。次に、バイオ燃料（燃料作物を作る）、作るとしたら結構大きな話になる。もしかするとすでに作っている農家もいる気がする。さらに、「ソーラーシェアリング」と言われている営農型太陽光発電（農地内に太陽光パネルを建てて、光をあまり必要としない芋類なら営農と両立できる発電方法）で、景観への影響があるなどは是非々だと思うが、議論していただく価値はあるのかなと思う。あとは、委員長がおっしゃったような地産地消の話で、南相馬市以外の場所におけるCO2排出を減らすことに貢献できるという話もぜひ議論していただければと思う。</p> <p>次に再エネについて、確かに再エネ導入量が多いこと自体は南相馬市の特徴と言っていいと思う。ただ、脱炭素においては日本中どこでも再エネは絶対にやらないといけないので、単に再エネをやるということだけだと特徴と言えなくなってしまう。一方で、南相馬市外の者から見ると「震災を経験している」ということが結構大きいのではないかなと思う。先日のアンケート結果を全部読んでもそう感じた。単に再エネを上げるだけではなく、「自律する」や「災害の備え」といった視点を入れていった方が、現時点での特徴というわけではなくてこれから目指していくときに特徴ができるのではないかなと思った。</p> <p>最後に、省エネルギーとか交通とかそういったこともやらないと脱炭素にはならないので、どこかにうまく入るとよい。無理に押し込む必要はなく、例えば再エ</p>

	<p>ネの中に電気自動車を入れる、電気自動車を再エネで走らせましょう、というような話しておく、自動車を多くの人に乗るので身近でもあるし効果も結構あると思う。</p>
委員長	<p>バイオ燃料に関しては、ナタネ栽培を震災前のバイオマスタウン構想の時から若干始めていて、震災後は絞った油からはセシウムは残らないのでこれを復興作物の一つとして活用しているという事例はある。また、農業作物はコミュニケーションツールの一つでもあり、フードマイレージのことだけを強調するべきではないと思う。</p> <p>また、市の再エネビジョン作成を少しお手伝いしたが、原発に頼らないことで市の消費電力分ぐらい発電することを最初の目標としたら、その先に本当の意味での電力の地産地消や災害対応という形で、直接その街の人たちに見える形、利益がある形を目指していく。それに関連する産業を育てることにしないと、単なる発電事業が増えるだけになる。そんな発言を分科会等でもしたいと思う。</p>
委員F	<p>南相馬市らしさについて私も考えたが、南相馬市では消費電力の94%までが再生可能エネルギーで作られるところまで数値が来ている点も一つの特徴ではあると思う。非常用電源として各官公庁舎の上に太陽光パネルを設置し、それが蓄電されて非常時に使われていることも南相馬の特徴といえると思った。</p> <p>もう一つ、新産業ということでロボットテストフィールドができたので、南相馬市を実証実験の場としてもっと活用できないものだろうか。沼、川、海などでドローンの実証実験などが行われているが、街中、市民の方たち、事業者の方たちと協力してロボットの新しい実証実験の場として、もっと南相馬市全体が活用されれば、新しい特徴になるのかなとも考えた。</p>
委員G	<p>イノベとかロボテスという話になったときに、すごく主語がぼやける気がする。市民の方から「ロボテスは知っているけれど私には関係ない」という空気感をすごく強く感じる。そこに参加しにくいとか参加する余地がないとか、当事者意識がないように思えるため、他人事としないことがいかに重要かと強く感じる。この地域にとって大きな財産なので何とか巻き込んでほしい。自分自身も関与していかないといけないと思っている。そして、もっとロボットのまちとしてPRしていけばいいと思う。</p> <p>いわき市に入るたびに、フラガールの絵があって、いわき=フラガール（ハワイアンズ）の空気を感じる。南相馬市に入る看板には文字だけだが、いわき市には標記とともにあの絵も目に入ってくる。だから、誰が見てもわかりやすいレベルで見せられたら良い。主語をはっきりして頂きたいし、主語が一番重要に感じるのは市民の皆さんだと思う。須賀川市に行く度にウルトラマンをよく見かけると思う。だから、南相馬市でも駅から市役所までロボットを置くなど、分かりやすいシンボルがあればぜひ検討いただきたい。それが今後の南相馬市らしさに繋がると思う。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。分かりやすいのは大事なことだと思う。</p> <p>ロボットテストフィールドは南相馬市のものではないということは置いて、</p>

	<p>活用することは良いと思う。</p> <p>先に分科会のご説明をしていただき、それでまた少し議論を深めたいと思う。</p>
事務局より、【資料1】の第5章について説明を行った。	
委員長	<p>ありがとうございます。スケジュールは説明の通りで、分科会のテーマは事務局案では5つとなっている。市民の取組のところに先程の議論内容がほぼ書かれており、環境教育等の市民に対する関心を高める取組、その先にあるまちづくりの視点までを議論してもらいたい。</p> <p>他分野についても具体的な項目が資料に書いてあるので、これを見ながらいろいろご意見いただきたい。分科会では複数テーマへの参加可能とのことである。</p> <p>何か発言はあるか。</p>
委員H	<p>市民からのアンケート意見について戻るが、75名の方の少数ではあるが実際にいただいた意見は非常に貴重だと思っている。その中で最もインパクトがあったのは、20代男性からの「南相馬市で二酸化炭素ぐらい減らすのは無理だと考えています。その理由として電気自動車に頼れば、その電気を生産する上でやはり二酸化炭素を抑えることはできないだろう」という意見である。20代の方がそのようなことを考えていることはおそらく同じように考える方がたくさんいるのかなと思った。そうなってくると、やはり小学生中学生の将来、2030年、2050年から逆算すると、ご意見の中にもあったように環境教育が非常に大事なと思う。ただ、学校の方では環境教育は小学校からやっているし、学校によってはかなり成果を上げているところもある。しかし、意見の中には「もっと学校で環境教育をやって欲しい」という話もあった。また一方で、学校では様々な教育ががんじがらめになっていて、子供たちが環境教育の押し付けで不快になるのではないかという意見もあった。実際、色んな種類の教育が入ってきて、飽和状況になっているのが今の学校なのかなと感じる。教職員の負荷もかなりかかっている。ただ、幸いなことに南相馬市だけで見ると「南相馬ふるさと教育学」があり、伝統行事・自然環境、そういったものをきちっと見直そうとする、ふるさとと学と道徳教育を掛け合わせた姿勢学を小学校からやっている。その辺の中に落とし込められたら良いなと思った。</p> <p>今日の配布資料のうち、南相馬市らしさがまとめられたP16~18の資料は非常に素晴らしいし、教育現場にとってもありがたい資料だなと思う。中学3年生は高校入試の願書出願も終わり、1ヶ月後の入試を控えて面接を受ける子もいる。その中には「南相馬の良さとは」とか、「南相馬で自慢できる場所は」と話したときに、詰まってしまう子供たちもいる。だから、二酸化炭素を減らすという目標も大事だが、南相馬らしさをきちっと学校で子供たちが学習して大人になる、そういった自分たちの故郷をしっかりとその環境を守っていこうっていう気持ちを育てていくことが大事だと思う。そういった意味で、南相馬らしさを整理していただいた資料は非常にありがたいなと思う。このような資料を活用しながら子供たちの教育の中に生かしていくことができるようなものを、分科会の中で考えていきたい。</p>

委員長	ありがとうございます。学校の先生方のご苦勞をすごく感じることもある。大学でお手伝いできることは遠慮なくお声掛けいただくと、うちだけではなく他大学や副委員長に紹介していただくとかできると思う。そういうことを積極的にやっていると私は思う。分科会でうまく提案していただいて、使うツールは精一杯使うというご提案をぜひお願いいたします。
委員H	一例だが、中学1年生の中に仙台に週1回行ってプログラミングを学んでいる子がいる。学習塾などの習い事の中で珍しいなと思って聞いてみたら、その子は将来ロボットテストフィールド関連の職種につきたいと目標にして、小学生の頃から学習塾でプログラミングを習って将来の準備をしていた。そんな子供もいるので、子供たちの手助けをすることで自分たちの故郷を守っていこうっていう理念に繋がって、それが環境教育に生きていくのかなと感じた。ゼロカーボンと直接繋がらないと思うが、分科会の方でこの点も大切にしていければと思う。
副委員長	委員Hの話聞いていくつか思ったが、私自身は子供の頃からそれなりに環境教育を受けて今まさに環境の研究を仕事にしている。その立場から仲間が増えるのはとてもありがたいことで嬉しいと思っている。環境分野に興味を持ってくださった方にいつもお願いしたいのが、数学と英語をやってほしいと思うことがとても多い。この分野はどうしてもたくさん数字が出てくる。 もう一つの英語ですが、コミュニケーションの話があったが、外部に対して発信する・外部で言われていることを受け取るとなったときに、やはり日本語のみだと狭い事例になってしまって外国で何が起きているのか知りたいと思ったときに必要になる。
委員長	ありがとうございます。 具体的に分科会でこういう取り組みをしたいと、かなり強い実施表明もあった。分科会のテーマは5つとしているが、こちらでスタートをかけてよろしいか。何かご発言等あればお願いしたい。 農業の部分と吸収源として林業が、とりあえず整合性が高いということで分科会の1テーマにしているが、このあたりはうまく情報共有をお願いしたいと思う。分科会のスケジュール感はP22に記載があるが、2月末あるいは3月頭には各メンバーが決まる。分科会の前に欲しい情報は市に質問したりご自身で調べたり周りの方にいろいろヒアリングする等を各委員である程度やっていただけると、5月の分科会での議論が活発になると思う。 その他、事務局からご要望はあるか。
事務局	4月に予定している現地視察では、先進的な取組をしている場所等の規模があれば伺いたい。予算の関係で、宮城県や福島県内でご提案があればいただきたい。
委員長	全体を通して、ご発言・ご質問等ございましたらお願いしたい。無いようであれば閉会とする。
5. 閉会	
事務局	委員長、ありがとうございました。たくさんのご意見をいただき、大変ありがとうございました。以上で第4回の委員会を終了とする。大変お疲れ様でした。

—以上—

■委員会の様子

